

都難言協会報

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

難言教育の更なる充実を目指して

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

会長 藤島 寿晴（江戸川区立大杉小学校長）



昭和三十七年に東京都で戦後最初の難聴学級が六つの小学校九クラス誕生し、その二年後には二つの小学校に言語障害学級が設置されました。誕生から今年で五十七年目となります。この長きに渡り、東京都の難聴・言語障害教育を都教育委員会とともに支えてきたのが、都難言協です。例えば通級制の導入では、都難言協の教育実践の積み重ねが都教育委員会の積極的な理解を促し、都独自の施策として導入されたと聞いています。これまで多くの諸先輩方が築き上げてこられたこの都難言協の実績を更に強固にしていく使命が私たちに求められています。喫緊の課題として、全都九十三校における指導の場において、すべての子どもに質の高い教育が提供できるための

教員の専門性や指導力の向上が挙げられます。そのための基礎研究や専門研修の充実を今年度も図っていきます。また、特別支援教育が広く知られ普遍的な事柄として日常の教育活動で取り上げられる中で、難聴・言語障害に係る様々な誤解や知識不足が散見される現実があり、正しい情報の普及周知の取り組みも行っていく必要があります。私たちの目の前にいる、困り感のある子どもや心配している保護者に対して、日々の実践で培った高い専門性を駆使した教育サービスが提供できるよう、今年度も充実した活動を進めてまいります。各学校、関係各所の皆様方には、これまで同様変わらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。

都難言協ホームページの紹介

都難言協は、東京都の小中学校のきこえとことばの教室同士が密な連携をしていくこと、特別支援教育の振興発展を図ることを目的としています。

都難言協ホームページは、資料の受け渡しや、会報、リーフレットのダウンロードなどができます。また、いろいろな人がきこえとことばの教室のことを知りたいと思ったときに役立てられるようにしたいという願いをもとに作られました。

まだまだ作成中ですが、これから更に充実させていきたいと思ひます。

URLはこちら

<https://www.tonagen.com/>

QR コードはこちら



❖ 学校紹介 ❖

稲城市立向陽台小学校 きこえとことばの教室

今年度より「きこえの教室」が設置され、4人体制の「きこえとことばの教室」になりました。今までは、他市の「きこえの教室」やろう学校の通級に通っている児童もいました。「きこえの教室」ができたことで、在籍学級とより密な連携をとれ、親子の移動の負担も少なくなりました。開設に向けて、過去の難聴の相談件数という数字データと、本市に補聴器を付けた児童が複数いたこと、これらのことを管理職が要望書にまとめ強く働きかけてくれたことで開設が実現しました。数字の裏付けと、管理職が現場のことを知ってくださることの大切さを改めて学びました。

山の上のとんがり屋根の向陽台小学校に、今3人の「きこえ」の子が元気に通っています。



都難言協
全体研究会
講演会

吃音のある子どもを取り巻く現状と支援

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
感覚器形態外科部耳鼻咽喉科

医師 富里 周太 先生

一、吃音のある子どもを取り巻く
現状と支援

最近、吃音について取り上げている映画やドラマが増えています。吃音についての知名度が上がってきていると思われがちですが、調査では吃音がある5割ほどの人が何らかの差別をされたと感じているようです。医療現場でもまだまだ理解されない現状があります。そんな状況が、吃音がある子どもたちにも起こり、孤立して一人で悩むことが一番心配です。

二、吃音の基礎知識について

○吃音とは

吃音とは、発話の「流暢性」が失われる疾患のことで、声は出るはずなのに、「なめらかに」話すことができないことを指します。吃音の症状としては、「お、お、お、お母さん」など最初の言葉を繰り返す「連発（繰り返す）」、「ぼーくの鉛筆」など、最初の言葉を伸ばす「伸発（引き伸ばし）」、「・・・とけい」など最初の言葉がな

かなか出てこない「難発（ブロック、阻止）」があり、後に述べたもののほど進行したものと考えられています。

吃音は人前で話す場面や、緊張、疲れ、環境が変わると出やすい傾向があります。逆に出ないときは、歌を歌うとき、メトロノームを使って言葉をつなぎあわせて言う場面、斉読です。「外からリズムを与えられると吃音はほぼ出ません。個人差が大きいので、個々に応じた対応が必要になってきます。

吃音は、発症四年以内に七、八割は自然に治癒していきます。逆に自然治癒しなかった吃音の根治は難しいとされています。

吃音は、ことばだけの問題ではありません。吃音の進展段階は四層にわかれます。二、四歳で急に発吃、連発がメインで起こる、「第1層」の時期。学童期に入り、伸発が混ざり、随伴運動が出てくる「第2層」の時期。思春期前半になり、一貫性のある単語や行を強く意識、工夫、言い換え、予期不安が起る「第3層」の時期、思春期

後半から成人の、吃音に対する恐怖、話す場面の回避、吃音症状の内面化、対人関係に障害から社会不安障害の合併が起こる「第4層」の時期です。

○社会不安障害とは

他人の注目を浴びる場面に對して、不安、恐怖を抱き、その場面を回避するあまり、社会生活に支障を生じている疾患のことです。うつ病や自殺のリスクが高く、来院する5、6割の人は社会不安障害をもっています。ことばの症状は氷山の一角であり、見えない部分も含めて吃音です。

三、学校の先生、ことばの教室に
期待したいこと

「教育現場としてできること」は、合理的配慮です。例えば、日直のときの出席調べがづらいお子さんに、日直を2人ずつにして、一緒に名前を呼ぶような仕組みにするなど、本人や周囲のみんなが無理なく、吃音がある子のための配慮をしてあげてほしいです。二つ目は社会不安障害の予防です。「認知行動療法」から、ヒントを紐解いていきます。

吃音に特化した「認知行動療法」とは、①「避けない」②「考えない」③「ほめる」④「許す」だと考えています。

認知行動療法とは、言語そのものではなく、「考え」を修正して、「不安」を減らすことで結果的にどもりにくくすることです。吃音の悪循環とは、「どもったらどうしよう（不安）」が「ど

もりそうだ（予期）」にかわり、「どもりそうな場面を避ける（回避）」となり、「どもらずに済む（結果事象）」を生みます。これを繰り返すことにより、不安をもつと強める結果になっていきます。どもりそうな場面から「逃げない」、どもる自分を、「隠さない」、難発が出そうなら、連発でもいいから言葉に出すなどの「避けない」対処をしていくことが大切です。

担任の先生方には、どもったかどうかではなく、「チャレンジしたこと」、「伝えるべきことを伝えたこと」自体を褒めていただきたいです。

四、これからの課題

3歳児健診や入学前診断で吃音のある子を拾い上げられていないことが課題としてあげられます。また、拾い上げられても繋げるところが少ないのも課題です。

医療、療育、教育、当事者団体が一体となった支援をしていきましょう。

（文責 水野清美）

都難言協
第1回
専門研究会

語彙学習の教材・課題

「生きたことばを育てるために」

葛西ことばのテーブル 三好 純太 先生



コミュニケーションの中で実用的に使える「生きたことば」を育てることが語彙学習の課題です。「生きたことば」を育てるため、大切な観点をまとめました。

〔資源／環境〕ことばが育つ基盤で大切なのは子どもを取り巻く環境が刺激に富んでいることです。豊富なことばかけ・抑揚に富んだ話し方などにより、ことばの基礎が育ちます。

〔共感性〕感じたことを言葉にし、共有することで相手を大切に思う気持ちが伝わります。その結果、安心してコミュニケーションができるようになり、ことばが育っていきます。子供と共感し合うために大切なことは、物事に対する気付きと相手に関心をもつことです。

〔関係性〕ことばの学習とは、ことばとことばの関係性の獲得を援助することであり、この積み重ねでことばのネットワークが作られます。ものの違いや共通点に気付かせることが、ことばを習得する必然性と動機を生み出すこととなります。

〔必要性／動機・意欲／推測／知識〕知りたい・伝えたい気持ちがかことばの発達を促す推進力となります。教材は、子供

の興味・関心に合わせた内容で用意できるとよいです。個別指導ではコミュニケーションギャップ（情報の差）を敢えて設定し、相手に情報を伝える必然性を設ける形も有効です。

そして、推測力はことばの自然習得の力を高めることにつながります。推測を支える知識も大切です。子供が経験値の高い題材を扱うと知識を習得しやすくなります。

〔聞く力／話す力／読む力〕ことばは聞くことで習得していくものです。聞く力が弱い子は、音の記憶力や分析力、聞く態度や他者への注目を育てるとよいです。

頭の中にあることばの辞書からその場に最適な言葉を探し出すという検索能力を高めることで話す力が向上します。ことばのネットワークが形成され、点で存在していたことばが線でつながることで、いろいろな場面により速く使えるようになつていきます。

読む力は、書きことばに触れることで、生活の中で触れない語彙を獲得し、文脈から推測していく力を高めていくことにつながります。（文責 内藤かのこ）

<担任の先生方へ>

難聴の児童・生徒への配慮について

難聴の児童・生徒のきこえは一人ひとり違います。音の情報の一部が欠落して聞こえる、「ク」を「フ」など子音を聞き間違えることがよく見られます。

〇話し方

- ・話し手の顔、特に口元がよく見えるように話す。
- ・普通の速さで、口の形をはっきりとさせて話す。

〇学習環境

- ・前から2～3番目が聴き取りやすい座席。
- ・重要語句を、板書の活用や復唱などで確実に伝える。
- ・補聴援助システム（FMマイク等）があれば積極的に活用する。

来年度から小学校でも英語教育が本格化します。合理的配慮として、カタカナルビ、リスニング試験での別室対応、代替措置などがあります。

一人ひとりに合った配慮で、難聴の子供たちが安心して充実した学校生活を送れるよう、よろしくをお願いします。

<保護者の声>（難聴）

初めて相談に来室したとき、小さな娘に先生方が優しく接してくれたことを覚えています。その後入学と同時に、きこえの教室の通級が始まりました。1年時、口話やきこえに関して不安が大きかった中、きこえの教室は親にとっては何でも相談できる場、娘にとっては楽しみながら学べる場でした。在籍校の友達に、娘のきこえについて理解してもらうように娘と一緒にきこえの教室を在籍学級で開き、娘の生活しやすい環境を整えたり様々な勉強会を開いたりしました。この6年間、先生方は娘に親身に寄り添い、その時々合った方法で対応してくださりました。また同じ教室に通った保護者とお子さん方からは多くのことを教わりました。6年間の振り返ると、ことばときこえの教室に通い、出会いや学びを経験したからこそ、今の私たち親子があるのだと深く感じています。きこえの教室で出会った方々に、感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

専 門 委 員 会

■研究推進委員会

難言教育には専門的な知識や指導技術が必要不可欠です。

そこで着任1～3年目の教員向けに「基礎研究会」、より専門性の向上を目指す教員向けの「事例研究会」、「課題別研究会」を企画運営しています。今年度も充実した研修・研究が行えるよう努めていきます。

■調査対策委員会

各学級の実態を把握し、指導をより充実させるため、その時に生じた課題の解決に向けて活動しています。

- ・基本調査の集計、結果の報告
- ・都、区市教委の「提案書」作成
- ・都教育委員会との意見交換会参加
- ・関係団体との合同研究会記録等

■広報委員会

会員の皆様に役立つ、様々な情報を発信しています。

- ・会報（年二回）
 - ・紀要
 - ・継送電話連絡網
 - ・設置校一覧
- それぞれにつきまして、お気づきの点がありましたら、広報委員会までお知らせください。

担当、文京区立金富小学校

ことばときこえの教室 伊勢

大会・学会・研究会などのお知らせ

第 48 回全難言協全国大会（三重）

【大会主題】三重で“つながる”
 【日程】8月1日（木）～2日（金）
 【会場】三重県総合文化センター
 【問い合わせ先】大会事務局長 辻 大輔
 （津市立修成小学校 ことばの教室）
 〒514-0837 津市修成町9番1号
 TEL：059-228-6321 FAX：059-228-7132
 E-mail：zennangenmie2019@yahoo.co.jp

第 53 回全日本聾教育研究大会（高岡大会）

【大会主題】未来の作り手となる聴覚障害児の「生きる力」を育む教育を考える～心と言葉を育み子供たちが自ら人生を切り拓くために～
 【日程】10月17日（木）～18日（金）
 【会場】富山県立高岡聴覚総合支援学校 他
 【問い合わせ先】富山県立高岡聴覚総合支援学校内
 〒933-0824 富山県高岡市西藤平蔵700
 TEL：0766-63-6385 FAX：0766-63-5884
 E-mail：takaokachokaku@ed.pref.toyama.jp

全難言協夏期全国研修会「はじめのいっぽ 2019」

【日程】8月5日（月）～7日（水）
 【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター
 【問い合わせ先】足立区立弥生小学校
 ことばときこえの教室（大井）
 〒120-0011 足立区中央本町2-5-1
 TEL：03-3848-5401

第 52 回全国情緒障害教育研究協議会（宮城大会）

【日程】8月8日（木）～9日（金）
 【会場】仙台国際センター
 【問い合わせ先】大会準備委員長 癸生川義浩
 （仙台市立生田小学校校長）
 〒982-0251 仙台市太白区茂庭宇中ノ瀬西5-2
 TEL：022-281-2033 FAX：022-281-0063
 E-mail：y_kebukawa@sendai-c.ed.jp

第 52 回 日本言語障害児教育研究大会

【日程】8月5日（月）～6日（火）
 【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター
 【問い合わせ先】櫻井 正二郎
 〒276-0041 千葉県八千代市麦丸1136-2
 FAX 専用：047-409-0512

事務局より

今年度の事務局は、江東ブロックと、ホームページ運用のために、多摩南ブロックと多摩北ブロックから一名ずつ、そして次期事務局の多摩東ブロックの一名で担当します。

日々の通級指導の充実、研究活動の円滑化、運営についての課題の解決が図れるように、事務局として微力ながら尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

―編集後記―

ご多用中の折、原稿をお寄せいただいた皆様に厚くお礼申し上げます。本会報を日々の教育活動に役立てていただければと思います。



都難言協会報

代表者（会長）藤島 寿晴
 責任者（広報委員長）大桃 昌博
 発行日 令和元年七月一日
 発行数 五六〇〇部
 印刷 有限会社 正陽印刷